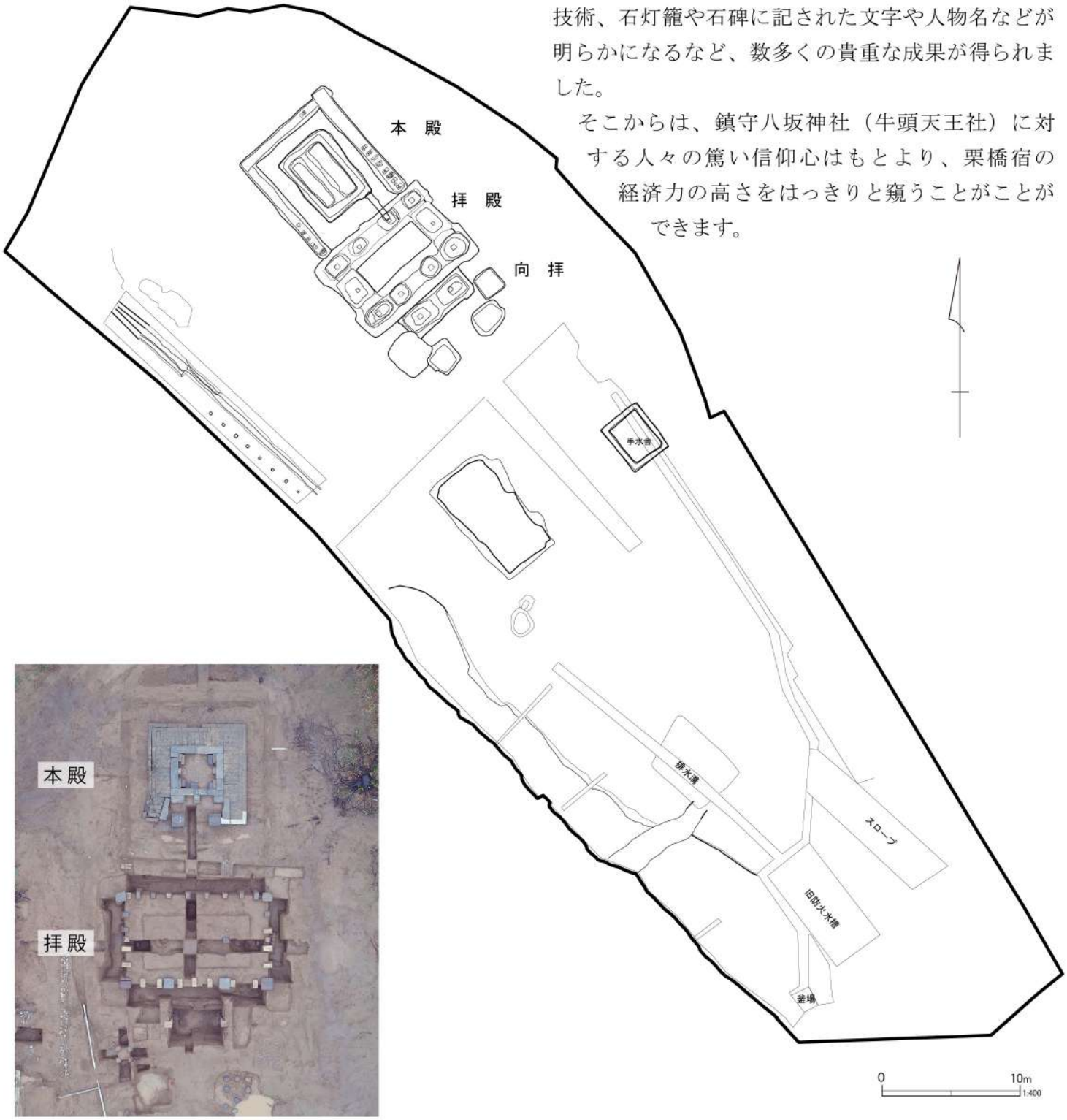
令和４年度第１回遺跡見学会資料　　令和４年７月２４日（日）

北2丁目陣屋跡　第4次調査

第一面　神社基礎確認面　19世紀中頃以降

調査によって、大規模な盛土の造成、本殿や拝殿の基礎地業が検出されました。複雑な構造と優れた技術、石灯籠や石碑に記された文字や人物名などが明らかになるなど、数多くの貴重な成果が得られました。

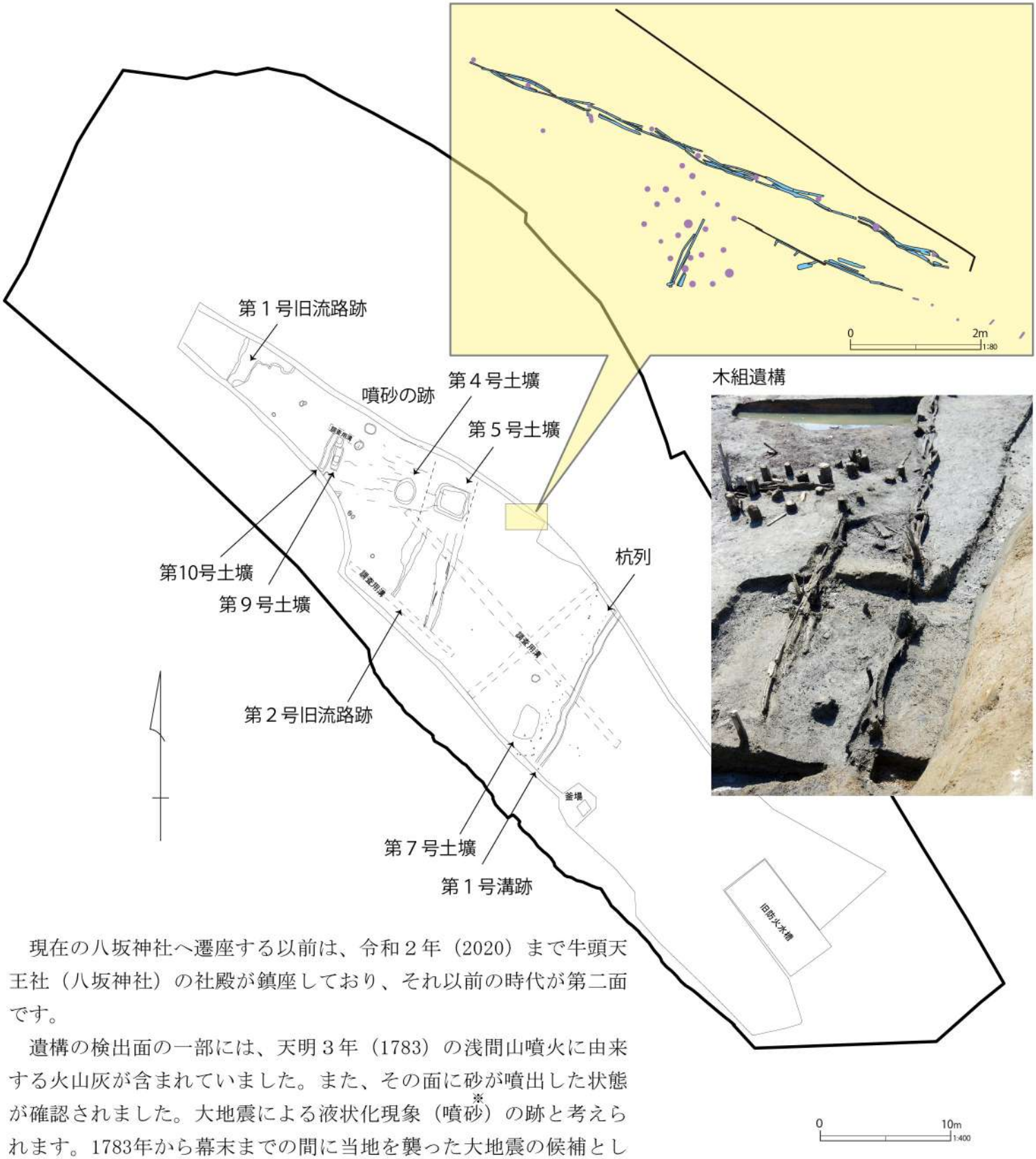
そこからは、鎮守八坂神社（牛頭天王社）に対する人々の篤い信仰心はもとより、栗橋宿の経済力の高さをはっきりと窺うことがことができます。



本殿・拝殿基礎

主催：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会・久喜市教育委員会

第二面　神社建築以前の時代　18世紀後半頃



現在の八坂神社へ遷座する以前は、令和２年（2020）まで牛頭天王社（八坂神社）の社殿が鎮座しており、それ以前の時代が第二面です。

遺構の検出面の一部には、天明３年（1783）の浅間山噴火に由来する火山灰が含まれていました。また、その面に砂が噴出した状態が確認されました。大地震による液状化現象（噴砂※）の跡と考えられます。1783年から幕末までの間に当地を襲った大地震の候補としては、嘉永７年（1854）の安政東海地震及び安政２年（1855）の安政江戸地震が挙げられます。この地震の痕跡の上に土を盛り、牛頭天王社の社殿を築いていた可能性も想定されます。

※ 噴　砂　地盤の液状化、水分の含んだ細かい砂は揺られると流動性が増し、液状化することがある。
地震の振動によって表層の飽和砂質土が地上に噴出する現象。

平凡社編『世界大百科事典』